

小寺駿吉（こでら しゅんきち）

石井 弘

（千葉大学園芸学部教授）

先生は明治34年6月23日、北海道の小樽生まれ。東京の開成中学を経て、九州帝国大学農学部林学科に学ばれ、造園学を専攻、昭和2年に卒業され、引き続き東京帝國大学農学部大学院に進まれ昭和7年修了。同年東京高等造園学校（現東京農業大学）教授に就任。その後、東大農学部講師を経て、戦後は千葉大学教授として造園の研究教育にあたられた。この間、九州大、東京農工大、三重大の講師を兼ねられ、昭和42年に千葉大学を停年退官。千葉大学の名誉教授になられた後も、日大、武藏野美術大で後進の指導にあたられた。

研究教育のかたわら、国をはじめ地方自治体、関係専門機関の各種委員も歴任され、また地域発展に視点を据えた沢山の現地に密着した研究報告書を残された。

先生の研究の姿勢は終始一環して厳密な考証を基礎に常に社会的背景をふまえたもので、研究発表に際しては使用する漢字も吟味され、独自の美文で、格調の高いものである。



「研究は科学的に、表現は芸術的に」が先生の言葉であった。常日ごろ短歌に親しまれ、賀状には必ずご自分が詠まれた歌が添えられていたものである。

昭和50年2月4日に風邪がもとで急逝された。翌51年に関係者が集い先生の主要論文を「公園史と風景論」という表題で記念出版した。研究の領域は広汎に亘るが、都市に関係深い所のみ挙げると、東京・横浜・北海道を中心とする公園の発達史、足跡を記した国内外にわたる風景論、都市環境形成にかかる風景政策問題の業績が数多い。都市問題を論ずる上で、今日なお多くの示唆に富むものである。

この研究を支えた背景に、関係資料の徹底した分類整理があり、紙一枚の資料に至るまで完全に整理保管され、どの資料もたちどころに取り出せる書斎があった。

昭和57年、先生のご遺志により、小寺夫人から7,000冊を越す蔵書のすべてが千葉大学に寄贈され、昭和62年12月、先生の独自の分類にしたがった。「小寺文庫目録」を、大学の付属図書館が刊行した。この目録に載せきれない図書以外の貴重な資料は、目下別途に整理中であるが、整理にあたり、あらためて偉大な足跡を残された師の姿が浮んでくる。